

電気錠・入退室管理システムのパイオニア



ケアロック取付引戸

日本電子工業株式会社

国産初の電気錠と非常口一斉解錠システムの開発

日本ではかつて「水と安全はタダ」と信じられ、防犯や防災への意識が低かった。そんな昭和30年代に国産の電気錠を設計・開発して売り歩いた人がいた。日本電子工業の先代社長である宮崎長生氏、現社長山之口良子氏の父である。

人が集まる公共の建物は、非常時にはすぐに外へ出られ、レスキュー隊が中に入る非常口が必要だ。「逃げるためには開けなければならぬが、普段はしっかりと閉めておかなければならない」。この二つの相反するニーズを可能にしたのが電気錠であった。「電気錠は地震や火事が起こった場合には信号を受けて一斉解錠することができるので、安全で有効ですよ」と広めて回ったという。

そして昭和38年、泉佐野市民会館に非常口一斉解錠システムが採用され、昭和40年には上野芝病院に日本発の病院向け同システムが導入された。

以来47年間、銀行、学校、刑務所、警察、裁判所等何千か所の安全を守る電気錠のメーカーとして今日に至っている。この国産初の電気錠は「ブリーロック」のブランド名で売り

出され、昭和48年には建設省防災性能評定品となつて、その機能が評価された。

さらに、非常口以外の出入口にも対応する電気錠システムや、会社での出入口管理のためのテンキー・カードによる入退室管理システム等に事業を展開している。

個々の安全に寄り添う介護支援システム

電気錠が日常の施設の運営管理に役立つことが実証されてくると、特別養護老人ホームや医療福祉関連施設でのシステムの導入が飛躍的に伸びた。そして、介護福祉施設の安全管理を引き受ける中で聞こえ始めた様々な声をヒントに、新たな製品の開発も進めている。

例えば「無線ペンダント徘徊検知システム」はペンダントをつけた高齢者が出入口に近づけば感知し、無断で外出すれば警報で管理者に知らせるシステムである。

そして「おむつセンサー」はおむつにセンサーチップをセットしたもので、尿もれを言い出しにくい高齢者の排尿による濡れを管理者に知らせるものである。中でも窓開放制限電気錠「ケアロック」は最近のヒット商品で、窓に取り付けられれば15cm開いたままの状態でロックされるので安全に換気ができ、しかも緊急時にはフルオープンできるといふもの。これらの機能を組み合わせることで、介護福祉施設向けの生活支援システムを作り、高齢者と介護福祉士双方の負担の軽減へとつなげた。

様々なシーンにおける入退室管理システムを強みとして、それをいろいろなものに連動させることで価値を高めていきたい、と山之口社長は言う。

「当社の設備を生かして、命を守りかきと支える環境をつくっていきいたいと思うのです。番犬というよりはサポートドッグのような存在でありたいですね」。安心・安全で快適な社会づくりを豊富な経験と確かな技術で支えている。

日本電子工業株式会社

Company Profile

住所 / 〒544-0033
大阪府大阪市生野区勝山北1-4-21
設立 / 昭和37年5月
資本金 / 9,600万円
従業員 / 25名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6731-1331
FAX / 06-6712-0066



山之口良子さん
代表取締役社長

主な事業内容

防災・防犯システムの設計・施工、電気錠制御盤・ケアロック・入退室管理システムの製造・販売、情報通信システムの開発・設計等

ISO 9001

大阪20

<http://www.jei.co.jp/>